

## (7) 近畿



近畿地域では、景気は弱まっている。

- ・ 鉱工業生産は緩やかに減少している。
- ・ 個人消費はおおむね横ばいとなっている。
- ・ 雇用情勢は厳しい状況にあるものの、持ち直しの動きがみられる。

(注) 下線を付した箇所は、前回からの変更のあった箇所を表す(    は上方に変更、    は下方に変更)

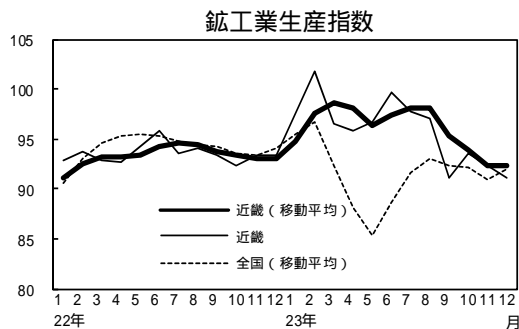
### 前回調査からの主要変更点

	前回 (平成 23 年 11 月)	今回 (平成 24 年 2 月)	
景況判断	弱含み	弱まっている	
鉱工業生産	弱含み	緩やかに減少	

## 1. 生産及び企業動向

### (1) 鉱工業生産は緩やかに減少している。

一般機械は外需の低下やボイラ・原動機が落ち込んだことから減少している。化学は一部で中国の市況が悪く、生産調整で稼働を落としていること等から減少している。食料品・たばこは飲料等が寄与し、増加している。電気機械は太陽電池モジュールが海外メーカーの低価格製品との競合や円高の影響により海外向けの産業用が減少したことに加え、セパレート形エアコンの売行きが悪く、在庫が積み上がっているため、生産を減少させたことにより減少している。鉄鋼は一部の生産設備で大規模工事が行われたことによる生産ラインの停止等により減少している。



### 域内主要業種の動向(季節調整値、前期比) (%)

	付加価値 ウェイト	生産		出荷	在庫
		7~9 月期	10~12 月期	10~12 月期	10~12 月期
一般機械	17.0	3.7	4.7	2.7	2.3
化学	14.5	1.1	2.2	2.8	3.0
食料品・たばこ	9.1	5.3	0.8	1.9	5.1
電気機械	8.5	1.2	8.7	8.9	6.7
鉄鋼	7.5	2.6	1.9	1.1	6.2
鉱工業	100.0	2.2	3.0	4.0	1.5

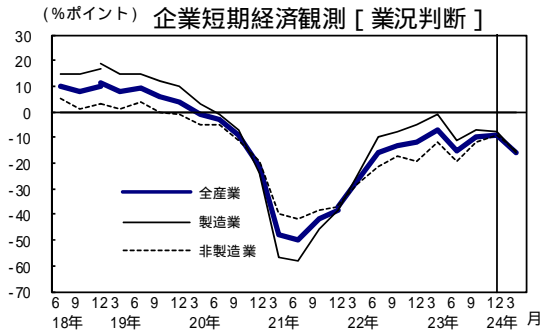
(備考) 地域における付加価値ウェイトの高い5業種。

(備考) 1. 17年=100、季節調整値。

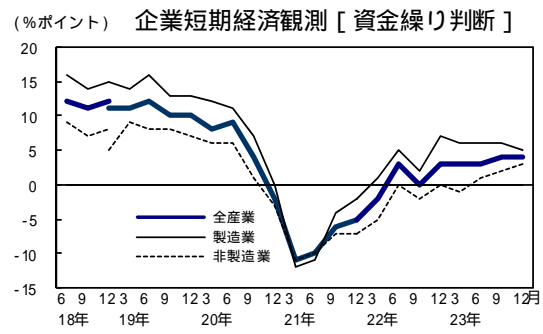
2. 全国及び近畿の太線は後方3か月移動平均。

(2) 企業動向の業況判断は「悪い」超幅が、資金繰り判断は「楽である」超幅がそれぞれ横ばいとなっている。

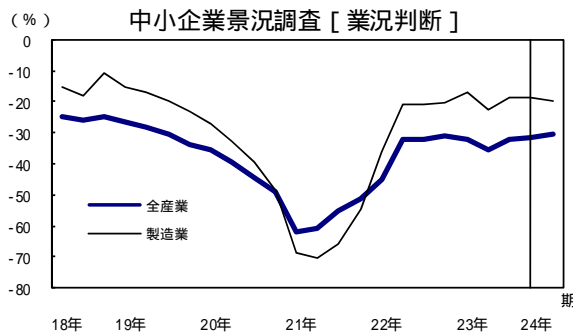
企業短期経済観測調査及び中小企業景況調査



(備考)「良い」-「悪い」回答者数構成比。24年3月は予測。  
18年12月および21年12月は新・旧基準を併記。



(備考)「楽である」-「苦しい」回答者数構成比。  
18年12月および21年12月は新・旧基準を併記。



(備考)「好転」-「悪化」回答者数構成比。24年 期は見通し。

景気ウォッチャー調査(1月)[企業動向関連(現状)]

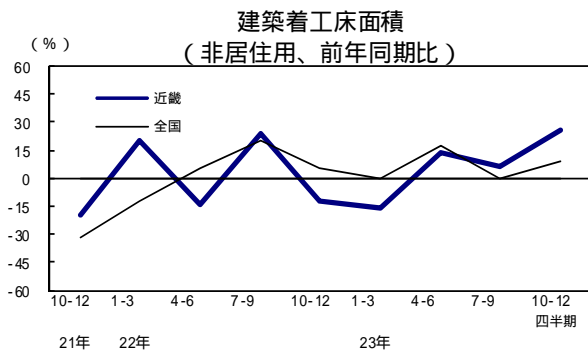
「円高の長期化や先行きの不透明感により、得意先の設備投資計画が凍結、延期となっている(建設業)」など、「変わらない」とする回答が多くみられた。

(3) 23年度の設備投資は前年度とほぼ同水準の計画となっている。

企業短期経済観測調査 [設備投資(12月調査)]

	(前年度比、%)	
	22年度実績	23年度計画
全産業	3.2	2.0( 1.2)
製造業	5.7	3.6( 3.1)
非製造業	1.3	0.7(0.3)

(備考)( )は前回(9月)調査比修正率。



(7) 近畿

2. 需要の動向

(1) 個人消費はおおむね横ばいとなっている。

大型小売店販売額

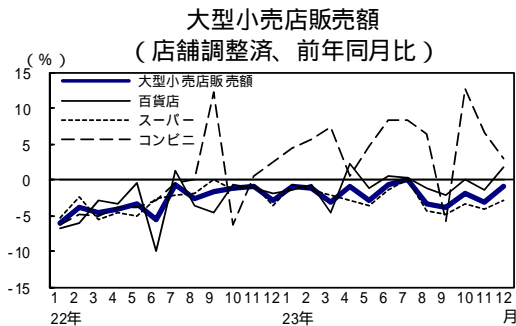
大型小売店販売額は、前年同期比で1.9%減、前期比で0.3%減となった。

百貨店は、10月は、月前半の気温低下に伴いウォームビズ関連商品などが好調に推移し、前年を上回った。11月は、平年よりも気温が高めに推移した影響で冬物衣料や防寒商材の動きが鈍く、前年を下回った。12月は、気温の低下とクリスマス需要との相乗効果で、ファッション全般が活発に動き、前年を上回った。

スーパーは、昨年のエコポイント特需の反動により、テレビやエアコン等が大幅減となり、前年を下回った。

景気ウォッチャー調査(1月)[家計動向関連(現状)]

「初売りの福袋は売行き好調となったが、その後は寒波の影響で来客数が減少し、前年の実績を下回っている。また、北海道物産展などの催事でも目立ったヒット商品がなく、かなり苦戦している(百貨店)」など、「変わらない」とする回答が多くみられた。



	23年1-3月	4-6月	7-9月	10-12月
大型小売店(*1)	1.8	1.5	2.2	1.9
百貨店(*1)	2.3	0.4	0.9	0.4
スーパー(*1)	1.4	2.7	3.1	3.4
大型小売店(*2)	1.1	0.4	0.2	0.0
(季節調整値)(*3)	( 0.1)	(1.4)	( 0.7)	( 0.3)
乗用車(*4)	24.4	35.2	18.4	24.9
(季節調整値)(*4)	(2.7)	( 12.4)	(30.4)	(6.8)

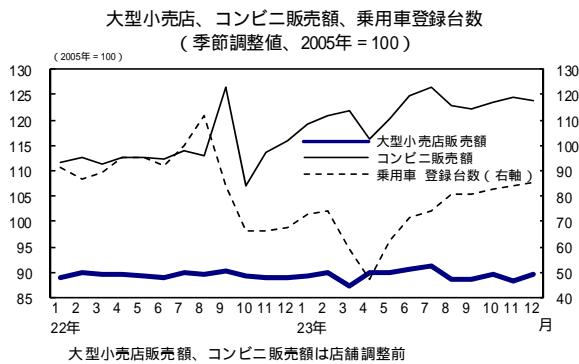
(備考) 1. 店舗調整済、前年同期比(%)

2. 店舗調整前、前年同期比(%)

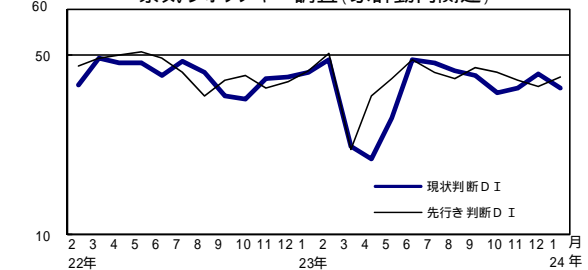
3. 店舗調整前、前期比(%)

4. 乗用車は新規登録・届出台数

(上段：前年同期比、下段：前期比、%)



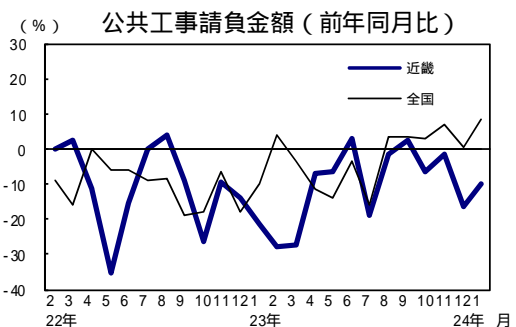
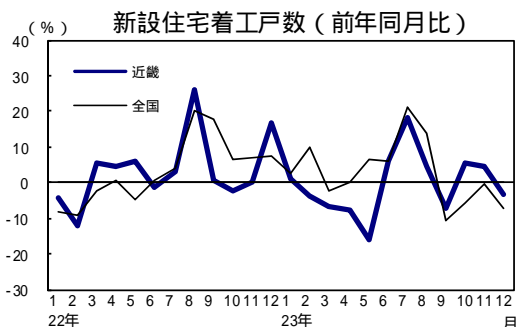
景気ウォッチャー調査(家計動向関連)



(2) 住宅建設は増加している。

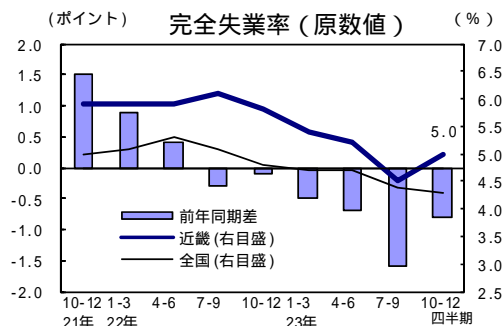
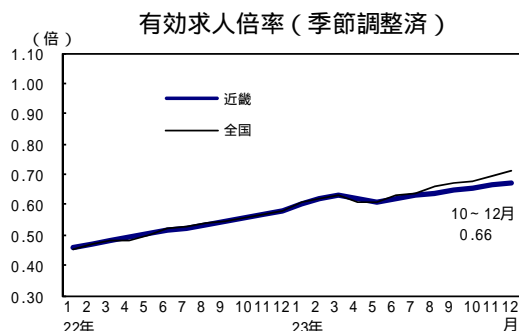
持家、貸家が前年を下回ったものの、分譲などが前年を上回ったことから全体では増加している。

(3) 公共投資は23年度累計で見ると前年度を下回っている。



### 3. 雇用情勢等

- (1) 雇用情勢は厳しい状況にあるものの、持ち直しの動きがみられる。  
 有効求人倍率及び完全失業率  
 有効求人倍率は上昇している。完全失業率は前年同期を下回っている。

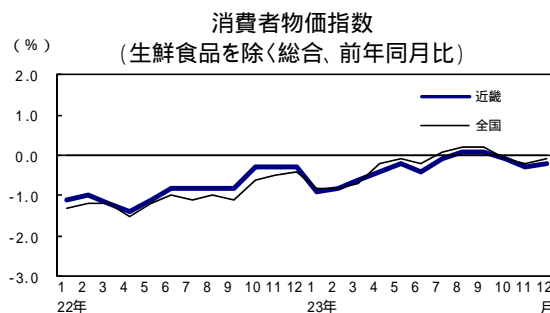


景気ウォッチャー調査 (1月) [雇用関連 (現状)]  
 「求人数は前年比で増加が続いている一方、稼働人数は横ばいが続いている (人材派遣会社)」  
 など、「変わらない」とする回答が多くみられた。

- (2) 企業倒産は、件数、負債総額ともに減少している。  
 (3) 消費者物価指数は下落に転じている。

#### 企業倒産

	(件、億円、%)				
	23年1-3月	4-6月	7-9月	10-12月	24年1月
倒産件数	857	902	839	858	244
(前年比)	9.3	3.6	2.6	11.0	12.9
負債総額	1,445	1,027	1,121	1,329	375
(前年比)	28.5	38.3	18.4	68.2	31.4



#### 景気ウォッチャー調査 (1月) [合計 (特徴的な判断理由)]

##### <現状>

- ・年末までは前年並みで推移するなど、少し回復感もあったが、年明け以降は徐々に客の購買意欲も低下している。省エネ家電のエコポイント制度終了以降は、消費喚起策がないことも影響している (スーパー)。

##### <先行き>

- ・円高などで、取引先の海外工場では現地調達へのシフトが加速しているため、先行きの見通しは非常に厳しい (金属製品製造業)。

